

(1) 快適な都市空間の形成

現状と課題

- 住宅や店舗などの郊外への立地が進んだ市街地では、急激な人口減少により人口密度が低くなることで、地域の生活を支える機能の低下などが懸念されています。
- 県内の主要渋滞箇所は2024年3月時点で139箇所あり、依然として都市部や主要観光地で交通渋滞が発生しています。
- 電柱類が景観を阻害しているとともに、地震などでの倒壊による道路の閉塞が懸念されます。
- 近年、ゆとりとにぎわいの創出や、自転車の活用を進めるなど、道路空間等へのニーズが多様化しています。
- 都市公園や緑地は、健康維持のための運動やレクリエーション活動など、様々な活動の拠点となるオープンスペースとしてのニーズが高まっています。
- 公園施設の老朽化が進む中、利用者のニーズに応じた公園づくりが必要です。



都市圏の渋滞状況 国道197号(大分市)

湯けむり景観を阻害する電柱類
国道500号(別府市)歩行者や自転車などへの配慮が必要な道路
(都)南立石亀川線(別府市)オープン空間としての緑地
かんたん港園(大分市)

これまでの成果

- 渋滞の緩和に向けて、(都)庄の原佐野線(下郡工区)や国道197号(鶴崎拡幅)などの整備を進めています。
- (都)祇園洲柳原線(本丁工区)の整備に合わせて無電柱化を進め、周辺景観の向上とともに、災害時の電柱倒壊による道路閉塞のリスクを軽減しました。
- 武道をはじめとする大規模大会の開催や、誰もが気軽に利用できる交流の場として、武道スポーツセンターを整備しました。



国道197号鶴崎拡幅 乙津橋(大分市)



(都)祇園洲柳原線(臼杵市)



武道スポーツセンター(大分市)

今後の取組

■人口減少社会に対応したまちづくり

- 立地適正化計画^{※1}の策定や社会情勢の変化などに対応した改定に市町と連携して取り組み、コンパクトなまちづくりを進めます。

■都市の骨格となる道路の渋滞対策 (コラム参照)

- 大分市内では、(都)庄の原佐野線(下郡工区、下郡・明野工区)など都市計画道路の整備を進めます。
- 国道197号など幹線道路の整備や交差点改良を進めるとともに、ビッグデータ^{※2}活用などによる効果的な渋滞対策を進めます。
- 大分スポーツ公園周辺へのアクセス改善や災害時の救援活動への貢献など、様々な効果が期待される大分松岡PAスマートIC^{※3}などの検討を進めます。



整備が進む(都)庄の原佐野線(下郡工区)

■多様なニーズに対応した道路空間等の形成

- 道路の拡幅や、歩道・自転車道の整備、無電柱化などにより、安全で快適な道路空間の整備を進めます。
- 道路空間や水辺空間を活用して、まちなかのにぎわいや憩いの場を創るなど、多様なニーズに対応した取組を進めます。



無電柱化による歩行空間の確保や
景観の向上 豆田地区(日田市)



道路空間を活用した音楽イベント
国道197号昭和通り交差点(大分市)



水辺空間を活用したイベント
大分川(大分市)

■都市公園等の整備

- 都市の緑とオープンスペースを確保し、様々な世代が快適にくつろぎ、交流ができる公園づくりを進めます。
- 地域のニーズに合った再編や、民間活力を取り入れた魅力の向上など、にぎわいのある公園づくりを進めます。



飲食店を併設した別府公園(別府市)

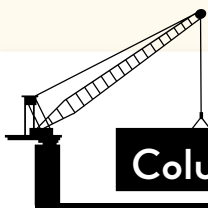
目標指標

指標名	基準値	目標値				
		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R15年度
対策を講じた主要渋滞箇所数(箇所・累計)	29	32	34	35	35	43
都市内の街路整備延長(km・累計)	509	509	511	513	515	520
一人当たりの都市公園面積(m ² /人)	12.3 (R4)	12.5 (R6)	12.5 (R7)	12.6 (R8)	12.6 (R9)	12.8 (R14)

※1 居住機能や医療・福祉・商業、公共交通など、様々な都市機能の立地の適正化を図る計画

※2 代表的なものとして、ETC2.0により収集される個々の車の位置情報や速度などのデータ群のこと

※3 高速道路の本線やサービスエリアなどから乗り降りができるように設置されるETC専用のインターチェンジ



現状

庄の原佐野線は、県都大分市の**東西骨格軸を形成する都市計画道路**です。

これまで、大分駅付近連続立体交差事業や大分駅南土地区画整理事業と併せて、**大分駅南側の魅力あるまちづくり**を行ってきました。

一方、大分市中心部と東部を結ぶ県道大分臼杵線では**交通渋滞が常態化し、渋滞に起因する事故も多発**しています。



大分臼杵線の渋滞状況

効果

「下郡工区」「下郡・明野工区」の整備により**交通が大幅に転換**し、大分臼杵線の**渋滞が緩和**します。

また、東九州自動車道や広域防災拠点への**アクセスが向上**することで、**災害時の緊急輸送道路**として機能を発揮します。



事業着手前

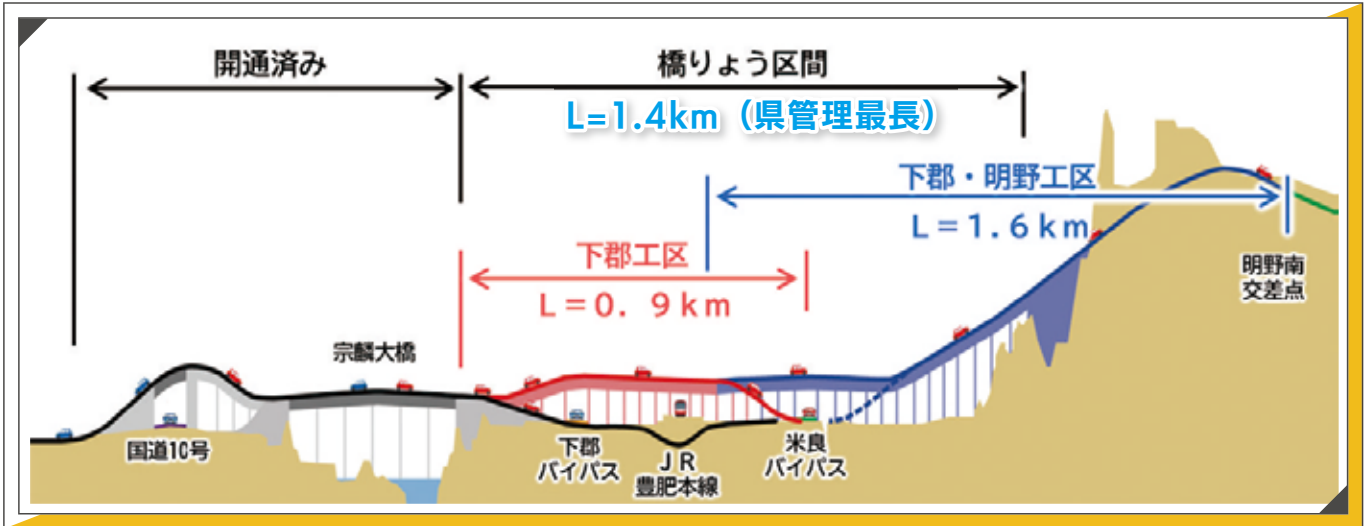


至 明野

至 大分市中心部

(都) 庄の原佐野線 (下郡工区、下郡・明野工区) 完成予想図

- 連続高架橋** 市街地を通る県管理最長の橋りょうを整備中!
- 橋梁色彩** 橋りょうの色彩は約4,000票の住民投票で決定!
- 交通規制** 日交通量2万5千台の道路で切替え工事を実施!
- 広報活動** 規制のお知らせはYouTubeにて配信!



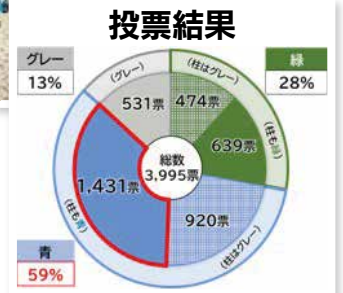
あなたの一票で橋の色が決まる！塗装色決定の取組

市街地を通る1.4kmの橋りょうの色について、**長く愛され、親しみを持って利用**してもらうため、3色の候補から住民投票を行いました!

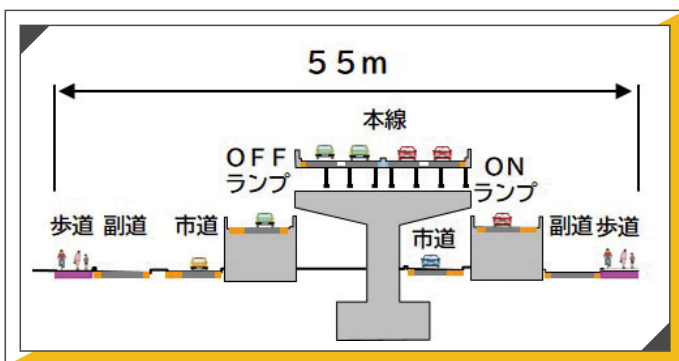
- 緑** : 大友宗麟ゆかりの壺や明野緑地を連想
- 青** : 青空や大分川の澄んだ水を連想
- グレー** : 周辺景観に溶け込みやすい

2022年8月末から9月末までの期間で、約**4,000**票が投票され、**1,431**票を獲得した**「青」**に決定しました!

橋の色は**「青」**に決定!!



断面図



詳しくはHPをみてね!

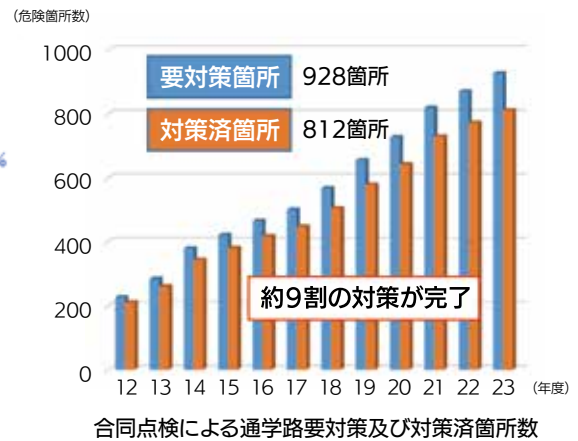
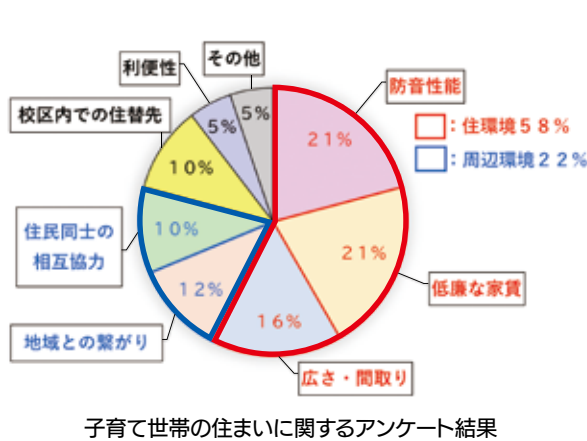
庄の原佐野線 **検索**



(2) こどもまんなかまちづくりの推進

現状と課題

- 人口減少や少子化により、こどもや子育て世帯に優しい社会づくりが求められています。
- 2023年(令和5年)12月に閣議決定された「こども未来戦略」において、今後10年間で子育て世帯などの居住に供する公営住宅等を約20万戸、民間住宅を約10万戸確保することが示されました。
- 子育て世帯の住まいには、防音性や広さの確保、低廉な家賃、こどもの成長に応じて変更できる間取りなどが求められています。
- 子育て世帯の孤独化や孤立化を防ぐためには、サードプレイス^{*1}などの交流拠点を活用した地域における相互協力、三世代同居や近居による見守りなどの支援が重要です。
- 公園や河川など屋外の遊び場においては、すべてのこどもが安心・快適に遊べる環境の整備が必要です。
- 未だこどもが犠牲となる交通事故が相次いでいることから、引き続き児童の安全確保に向けた取組が必要です。



これまでの成果

- 大分市内の県営住宅において、間取りの変更や給湯設備の改修など、子育て世帯向け住戸の整備を進めています。
- 子育て世帯や三世代が暮らす住宅において、こども部屋やトイレなどのリフォームを支援しました。
- 都市公園の老朽化した遊具などは、こどもが安心・快適に遊べるよう、複合遊具^{*2}などへの更新を進めています。
- 学校関係者や警察と連携した通学路の合同点検に基づき、カラー舗装や区画線による速度抑制、防護柵の設置など、通学路の状況に応じた効果的な交通安全対策を実施しました。



複合遊具への更新
文化児童公園(大分市)



防護柵設置による交通安全対策
豊後高田国東線(豊後高田市)

^{※1} 自宅や学校、職場とは異なる交流や活動を生み出す第3の場所
^{※2} いくつもの遊具が複合して、ひとつの巨大な遊具となっているもの

今後の取組

■安心して子育てできる住環境づくり (コラム参照)

- 子育て世帯の経済的負担を軽減するため、公営住宅への優先入居を進めます。また、子育て世帯向け住戸整備を県内全域に拡大します。
- こどもの成長や家族構成の変化に応じて間取りを変更できる住宅の普及や、こども部屋などのリフォーム支援を進めます。また、空き家などの既存ストックを活用した子育て世帯向け住宅の供給を促進します。
- 子育て世帯への居住支援体制の充実、地域交流スペースの確保や子育て世帯が利用できる居場所(サードプレイス)づくりの促進により、つながり支え合いながら子育てできる住環境の実現に向けた取組を進めます。



子育て世帯向け住戸整備イメージ



子育て世帯が交流できるスペース
(サードプレイス)

■子育てしやすい周辺環境の整備

- 都市公園において、誰もが楽しめ、安心して居心地の良いインクルーシブ^{*3}な遊び場づくりを進めます。
- 民間事業者や学生ボランティアと連携したイベントの開催など、ハーモニーパークの魅力向上に向けた取組を進めます。
- 「かわまちづくり^{*4}」などにより、安全で快適に過ごせる、にぎわいのある水辺空間づくりを進めます。
- 市町村が行う、乳幼児一時預かり施設や交流スペースの整備など、支援環境の充実に向けた取組を促進します。



水辺空間を活用したイベント
彦の内川(津久見市)

■安全・安心な交通環境の整備

- 合同点検に基づく通学路の危険箇所を解消します。
- 安全で快適な歩行空間や自転車通行空間の整備、生活道路におけるゾーン30プラスの取組を進めます。



通学路の歩道整備 国道388号(佐伯市)

目標指標

指標名	基準値	目標値				
		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R15年度
県営住宅の子育て世帯向け住戸整備戸数(戸・累計)	30	80	110	140	170	500
通学路合同点検の要対策箇所対策率(%)	—	44.8	70.6	79.3	88.7	100

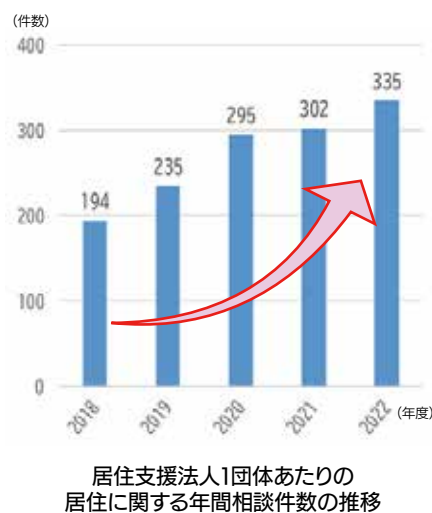
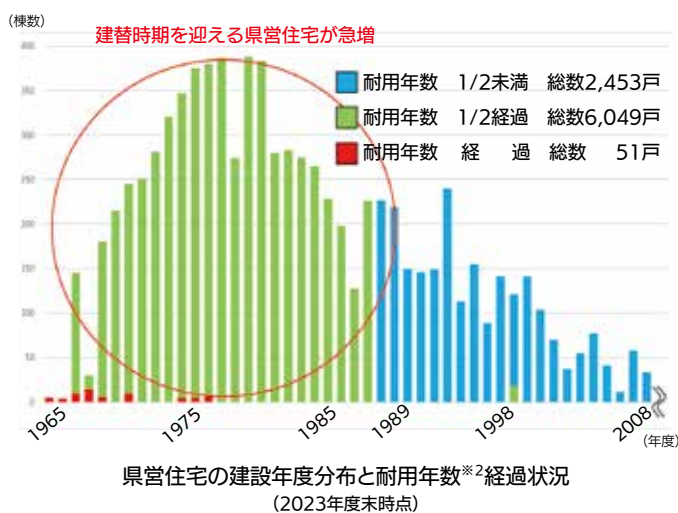
※3 年齢や性別、人種や国籍に関わらず、すべての人が共生できる社会を目指す理念

※4 河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取組

(3) 快適な住まいづくりと地域共生社会の実現

現状と課題

- ・ 県営住宅は高度経済成長期からバブル期に集中的に整備され、今後一斉に建替時期を迎えることから、改修・更新費用が大幅に増加し、維持管理に支障をきたすおそれがあります。
- ・ 少子高齢化による家族形態の変化などにより、県営住宅入居者のニーズも多様化しています。
- ・ 住宅の老朽化、ライフスタイルやライフステージの変化により、リフォームを必要とする高齢者や子育て世帯が増えています。
- ・ 高齢者・障がい者・生活困窮者などの住宅確保に支援を必要とする「住宅確保要配慮者」の増加に加え、求められる支援内容も複雑化しています。
- ・ 住宅確保要配慮者への支援には、住宅と福祉の連携が不可欠です。2024年の住宅セーフティネット法^{※1}の改正で、関係者が連携した包括的な支援体制の整備が努力義務となりました。
- ・ 人口減少や高齢化などにより、各地で空き家が増えており、その利活用が課題となっています。



これまでの成果

- ・ 2020年5月に「大分県公営住宅マスタープラン2020」を策定し、計画的に長寿命化を図りながら、室内のバリアフリー化など多様化するニーズへの対応を進めています。
- ・ 全ての市町村で居住支援ネットワーク会議^{※3}を実施し、2023年度末には5市町において居住支援協議会^{※4}が設立(東京都に次いで全国第2位)しました。単身高齢者の住替えや子育て世帯の住まいの確保など、様々な相談について継続的な支援を進めています。



手すりの設置による浴室のバリアフリー化 下郡団地(大分市)



居住支援ネットワーク会議 (豊後大野市)



居住支援協議会による高齢者の住替え支援 <シェアハウスの提供> (豊後大野市)

※1 住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律

※2 耐用年数:鉄筋コンクリート造70年、ブロック造45年、木造30年

※3 福祉関係団体、不動産業者、地域住民、行政などの関係者が、居住支援に関する情報や課題などを共有する会議

※4 ネットワーク会議の参加者を主な構成員として、要配慮者の相談支援や居住支援に関する周知啓発などを行う組織

今後の取組

■大分県公営住宅マスタープラン2020の更なる推進 (コラム参照)

- ・老朽化した県営明野住宅の集約建替などを実施し、将来を見据えた適正な戸数を確保します。
- ・適切な時期に改修を行うなど、計画的な維持管理により、公営住宅の長寿命化を図ります。
- ・利用しやすい間取りへの変更や老朽化した設備の改修、バリアフリー化など、子育て世帯や高齢者等が安心して暮らせる住環境の整備を進めます。
- ・子育て支援施設などの併設による福祉サービスとの連携、地域住民も利用できる集会場や公園などの整備を進めます。



県営明野住宅の集約建替のイメージ



集会場などの整備イメージ

■地域共生社会の実現へ向けた居住支援の推進 (コラム参照)

- ・子育て世帯や高齢者世帯のニーズに合わせたリフォームを支援します。
- ・全市町村での居住支援協議会設立へ向け、ネットワーク会議の開催と伴走支援を行います。
- ・住宅確保要配慮者の住まいの確保や居場所(サードプレイス)づくりなど、居住支援協議会の活動を支援します。併せてセミナーなどの開催により、県民の理解を深めます。
- ・大学や居住支援協議会と連携し、空き家の利活用を図ります。
- ・介護・医療サービスや子育て支援など、福祉分野との連携を強化します。



地域の集会所「サードプレイス」に集う高齢者
(豊後大野市)



県民向けの居住支援セミナー
(竹田市)



空き家を活用したシェアハウス
(竹田市 新町ウイズ)

目標指標

指標名	基準値	目標値				
		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R15年度
県営住宅1階住戸内バリアフリー整備戸数の割合(%)	78.3	80.4	80.6	80.9	81.2	84.5
市町村居住支援協議会の設立数(団体・累計)	5	9	12	15	16	18

■誰もが快適に暮らせる県営住宅に向けて

民間ノウハウを活用した明野住宅の建て替え



建築から50年が経過し、建物が古くなった…
5階建てにもかかわらずエレベーターが設置されていない…

➡ 老朽化やバリアフリーなどの課題を解決するため、県営明野住宅の建替を進めています！

- Point1** 16棟565戸→5棟300戸に集約建替
- Point2** 財政負担の軽減や早期整備のため、民間のノウハウを活用(PFI方式)
- Point3** 集会所や児童遊園などを合わせて整備し、地域コミュニティを醸成



整備イメージ



安心して子育てできる子育て世帯向け住戸整備

県営住宅では、子育てしやすい間取りへの変更や使いやすい設備への改修を進めています。2018年度より、大分市内の団地から改修を進めており、今後は県内全域に拡大します。

ベビーカーを置く場所があるといいな！



◆玄関
・ベビーカーや外遊び道具置場を確保



◆こども部屋
・使い勝手の向上



自分の部屋が欲しい！



◆お風呂
・給湯設備やシャワー水栓を設置



◆寝室
・収納しやすいクローゼットに変更



リビングで家族みんなでゆっくり過ごしたい



◆間取り
・LDKタイプへの変更
・こどもの見守りができる対面キッチン

■リフォーム支援で子育てしやすい住まいづくりを応援

近年、共働き世帯が増える中、世代間で助け合いながら子育てができる三世帯同居・近居のニーズもあります。多様化する子育て世帯のニーズに対応したリフォーム支援により、安心・快適な住まいづくりに力を入れていきます。

子育て支援型

対面キッチン・洋式トイレへの改修、こども部屋へのリフォーム等

三世帯同居支援型

キッチン・風呂・トイレ・玄関の増設・改修、世帯を区切る壁のリフォーム等



対面キッチンへのリフォーム事例

お問い合わせ先

お住まいの市町村または建築担当部署のある県土木事務所
(別府・大分・臼杵・豊後大野・日田・中津)まで

詳しくはHPから!



■居住支援のススメ

高齢者や障がい者、生活困窮者など、住まいや暮らしに困り事を抱えた方々(住宅確保要配慮者という)の支援を行うことを“居住支援”と呼び、県では、居住支援協議会の設立などの体制づくりを進めています。

【居住支援協議会の支援例】



住まいや暮らしをサポート



住まいの紹介
手続きの支援



暮らしに関する
様々な支援
(見守り等)



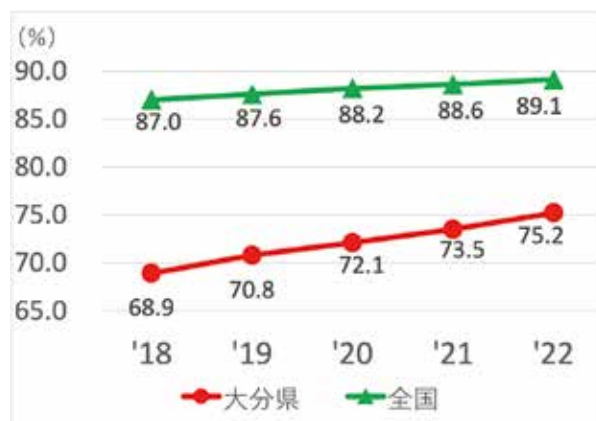
周りを見渡せば、多くの方がこのような支援を必要としていることに気づかされます。そしていずれは自分自身も支援が必要となるかもしれません。

人ごとではなく自分ごととして居住支援について一緒に考えませんか？

(4) 持続可能な環境づくりの推進

現状と課題

- 地球環境問題が深刻化していることから、環境への負荷を抑えて、豊かな自然を保全するグリーン社会の実現が求められています。
- 国の「カーボンニュートラル宣言」を受け、本県においても、2030年までにCO₂排出量を36%削減(県目標)するため、家庭・業務・運輸の各部門で早急な取組が求められています。
- 本県の污水衛生処理率^{※1}は75.2%(2022年度末時点)で全国42位と低い状況であり、生活排水処理に対する取組が引き続き必要です。
- 河川などの水辺空間は、生物の生息・生育に重要な場所であることから、生物の多様性に配慮する必要があります。
- 建設副産物のうち、建設発生土の有効利用と民間の建築工事から排出される廃プラスチックの分別・リサイクルが進んでいない状況です。



污水衛生処理率の推移

これまでの成果

- 省エネ住宅の普及に向けて、大分県の地域毎の気候特性に応じた「おおいためじろオシ住まいガイドライン」を作成しました。
- トラック輸送から船舶を利用した海上輸送へのモーダルシフトを促進するため、荷主や運送業者へのポートセールス^{※2}を行った結果、大分港でのRORO船^{※3}便数は、2015年の週3便から2023年には週7便に増えました。
- 下水道施設等の整備や単独処理浄化槽等から合併処理浄化槽への転換を促進しています。
- 地域住民と協働した清掃活動や、小学生を対象とした生活排水出張教室などの啓発活動により、住民参加の水環境づくりを進めています。



大分県ライフセービング協会との協働清掃活動(田ノ浦海岸:大分市)



RORO船の荷下ろし状況(海上輸送へのモーダルシフト)

※1 以下の計算式で算出される、汚水が衛生的に処理されている人口の割合

((下水道等接続人口+合併処理浄化槽設置人口)÷住民基本台帳人口)×100

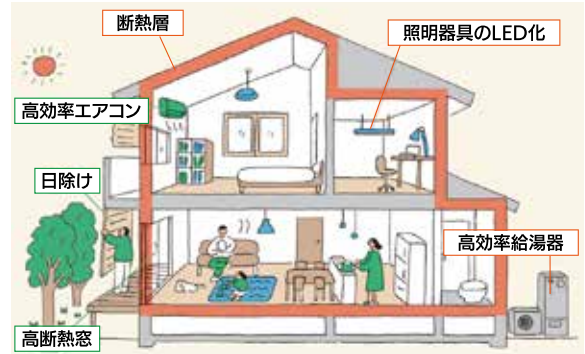
※2 港の管理者が企業などに港湾利用のメリットを説明し、船舶・貨物の誘致などを促進すること

※3 Roll on Roll off(ロールオン・ロールオフ)船の略で、貨物を積んだトラックなどがそのまま船内外へ自走できる貨物用船舶

今後の取組

■カーボンニュートラル実現に向けた取組の推進 (コラム参照)

- ・県民の意識醸成と建築技術者の技術力向上に向けた取組により、ZEH^{※4}やガイドラインの基準に合った省エネ住宅の普及を促進します。
- ・環境にやさしい木造住宅・木造建築物の普及を促進します。
- ・県有施設において、新築・改修工事が予定されている総合庁舎などのZEB^{※5}化を進めます。
- ・さらなるモーダルシフトを促進するため、ポートセールスの強化や港湾整備を進めます。
- ・港湾利用者や立地企業などと連携して、港湾脱炭素化推進計画を作成し、カーボンニュートラルポート^{※6}形成に向けた取組を進めます。
- ・道路ネットワークの整備や渋滞対策などにより、道路交通の円滑化を図ります。



省エネ住宅の概念図

■生物多様性に配慮した水環境づくり

- ・地域の特性に応じた生活排水処理手法への見直しを促すとともに、処理施設の整備を進める市町村を支援します。
- ・生物の生息・生育環境などを保全・創出する多自然川づくりを進めます。
- ・生活排水処理対策や地域住民が参加する水環境づくりを進めるため、関係機関と連携した啓発活動を行います。



生活排水処理手法の見直し概念図
(下水道区域を浄化槽区域に見直した例)



淵を残しワンド^{※7}を創出した河川整備
(八坂川 杵築市)

■建設リサイクルの推進

- ・建設発生土情報交換システムの利用促進など、建設発生土の更なる利活用を進めます。
- ・建設現場における廃プラスチックの適正な分別を促進するため、関係機関と連携した啓発活動を行います。

目標指標

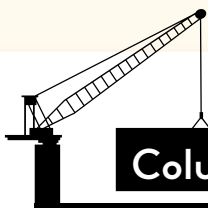
指標名	基準値	目標値				
		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R15年度
污水衛生処理率(%)	75.2 (R4)	80.7 (R6)	82.5 (R7)	83.7 (R8)	84.8 (R9)	90.6 (R14)

※4 ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略、太陽光発電による電力創出・省エネルギー設備の導入・外皮の高断熱利用などにより、生活で消費するエネルギーよりも生み出すエネルギーが上回る住宅

※5 ネット・ゼロ・エネルギー・ビル^{※5}の略、消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物

※6 水素の貯蔵・供給を可能にする受入環境整備、港湾機能の高度化などにより、温室効果ガス排出ゼロを目指す港湾

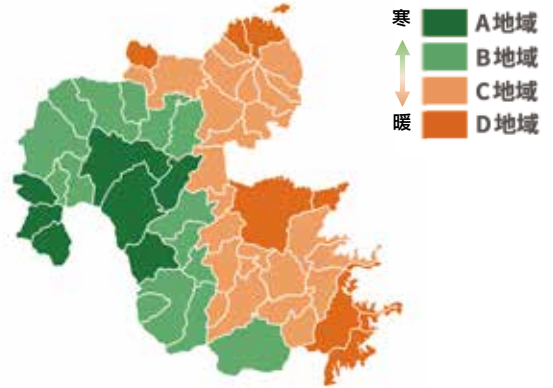
※7 河川敷にできた池状の入り江のことで、河川の生物多様性を豊かにする重要な場



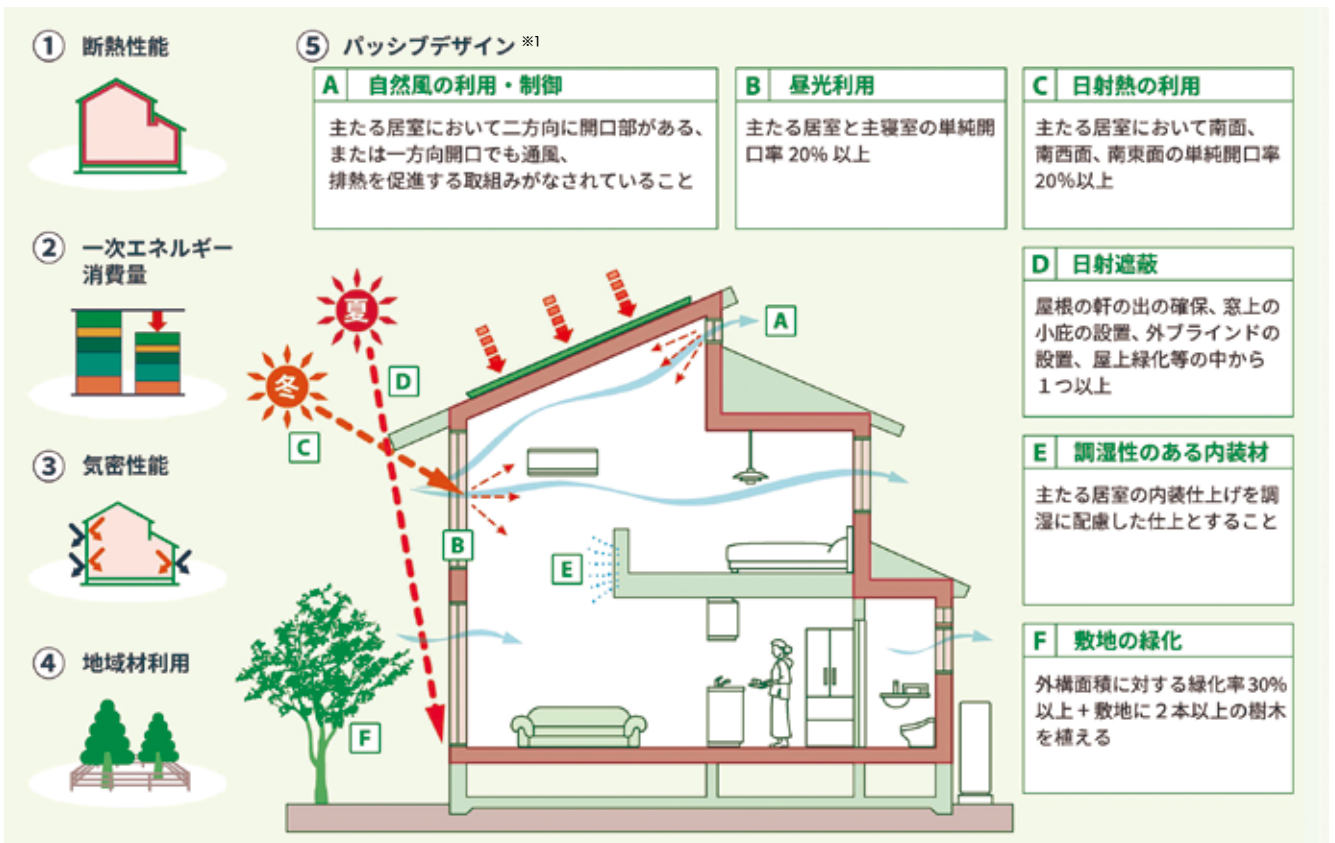
■おおいた省エネ住宅の普及促進 ～地球と人にやさしい暮らしを目指して～

県では、省エネ住宅の普及を進めるため「おおいためじろオシ住まいガイドライン」を作成しました。このガイドラインは、大分県内の地域毎の気候特性に合わせた「快適」で、「経済的」で、「健康」な暮らしを実現するための基準等(窓や天井等の断熱化のポイントや設備の省エネ化等)を示したものです。

地球と人にやさしい暮らしを目指して、地球と人への好影響が「めじろオシ」な環境品質の高い住まいを促進します。



ガイドライン独自の気候区分「おおいた区分」



ガイドラインで目指す省エネ住宅のイメージ



【④の例】地域材をふんだんに利用した住宅

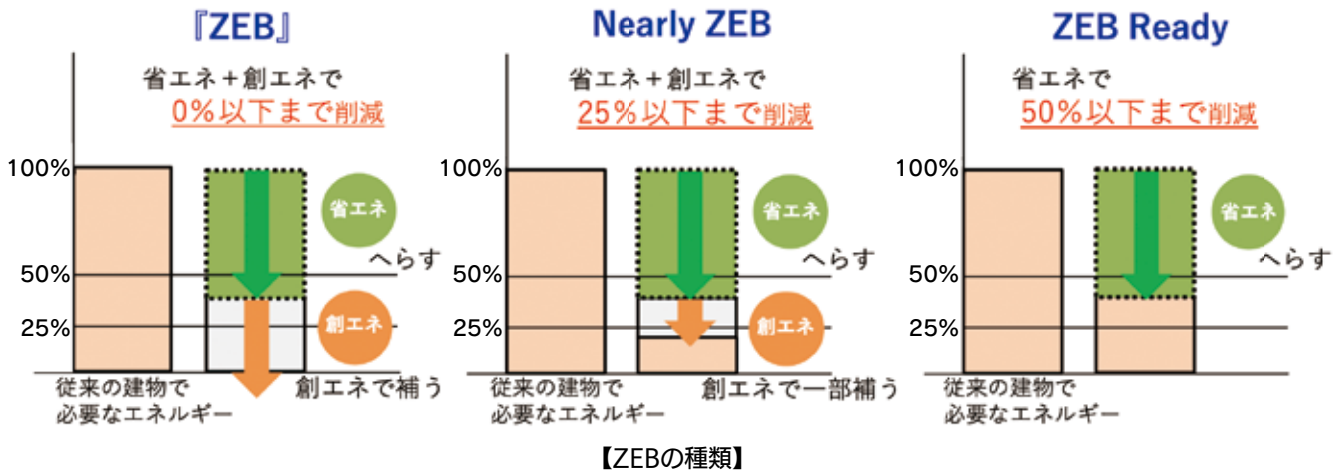


【⑤の例】パッシブデザインを取り入れた住宅

※1 太陽の熱や光、風といった自然のエネルギーを、機械を使わずに建物に利用する設計手法

■ 県有建築物における省エネ・創エネ※2 (ZEB)の推進

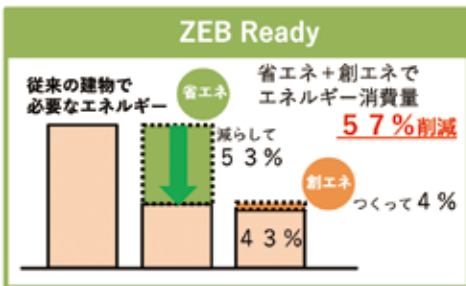
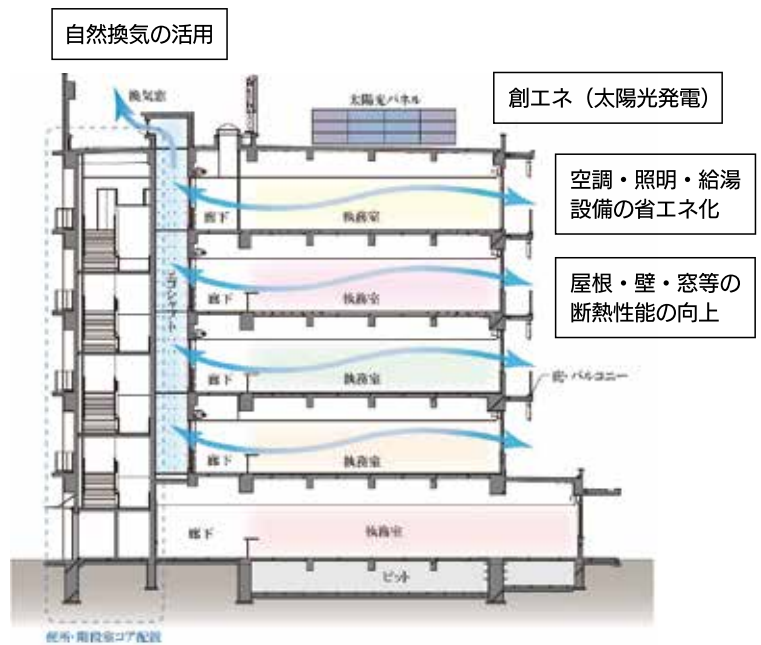
建築物の低炭素化を進めるためには、公共建築物において率先して省エネ対策や再生可能エネルギー導入拡大に取り組む必要があります。県では、県が所有する建築物の新築や改修においてZEB化を進めています。



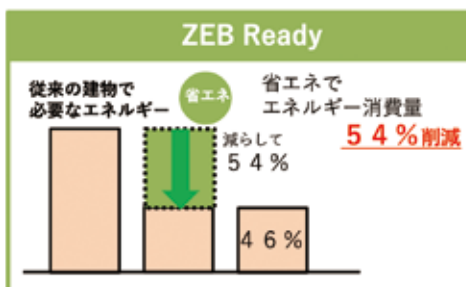
別府総合庁舎新築におけるZEB化



【新築イメージ(基本設計時)】



別府総合庁舎新築におけるZEB化



※2 太陽光発電システムなどを敷地内や建築物に設置することにより、自らエネルギーを作り出すこと

(5)「おんせん県おおいた」のツーリズム支援

現状と課題

- 大分空港国際線の復活やポストコロナによる国内外からの来訪者が増加しています。地域経済を支える観光産業の活性化に向け、「持続可能な観光地域づくり」を支える環境の整備が求められています。
- 主要観光地へのアクセス道路や周遊ルートでは、すれ違いが困難な箇所や線形不良箇所の解消など、安全で快適に観光できる道路環境の充実が必要です。
- 自然や文化が体験できるアドベンチャーツーリズム※1に関心が高まる中、本県の有する自然景観などを守り・育てることで、観光振興につなげていくことが重要です。
- クルーズ船の受入など多様化するニーズに対応するため、港湾の更なる魅力や利便性・安全性の向上が求められています。
- 観光目的の多様化や体験価値を重視する市場のニーズを受けて、インフラを観光資源として積極的に活用する「インフラツーリズム※2」が注目されています。



自然豊かな景観
やまなみハイウェイエリア(九重町)



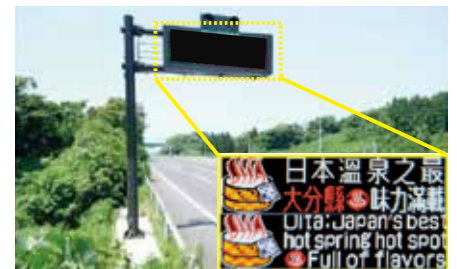
インフラの魅力発信
(中津日田道路のトンネルキャンプ)

これまでの成果

- つくみイルカ島へのアクセス道路である四浦日代線(仙水工区)、ぐるっとくじゅう周遊道路※3である国道442号(久住拡幅)など、県内主要観光地へのアクセス道路や周遊ルートの整備を進めています。
- 外国人にもわかりやすい道路情報板の整備、道の駅のトイレ洋式化など、国内外から訪れる観光客が気持ちよく観光できるよう「おもてなしの環境整備」を行いました。



四浦日代線の整備(津久見市)



道路情報板の多言語表示(大分空港道路)

- 大分県の豊かな景観を保全するため、景観副読本などの作成や「大分県広域景観保全・形成指針」の策定により県民の景観意識の向上を図るとともに、支障木の伐採による景観の再生を図りました。



豊後くろしおライン(佐伯市)

※1 アクティビティ体験、自然体験、文化体験の3つの要素のうち、2つ以上の要素で構成される旅行のこと

※2 ダム、橋、港、歴史的な施設等、インフラ施設を観光すること

※3 くじゅう連山の山麓を一周できる周遊道路の愛称

今後の取組

■安全で快適な道路環境づくり

- 主要な観光地へのアクセス道路や周遊ルートについて、すれ違いが困難な箇所の解消など、道路整備を進めます。
- 区画線の更新や路面補修、防草対策などを適切に行い、安全で快適に移動できる道路環境の創出・維持に努めます。
- サイクリングレース(ツール・ド・九州)への対応などスポーツツーリズム^{※4}の支援をはじめとした、歩行者や自転車が通行しやすい道路空間づくりを進めます。



すれ違いが困難な立羽田の景へのアクセスルート
玖珠山国線(玖珠町)



ツール・ド・九州2023(日田市)

■良好な景観の保全・形成

- シンポジウムの開催などによる景観意識の醸成、県や市町村、景観保全団体などが連携する取組を進めます。
- 観光地のまちなみに調和した景観を創出する無電柱化を進めます。



景観シンポジウムの開催状況

■港湾の利活用による「にぎわい」創出

- 関係機関と連携したクルーズ船誘致や円滑かつ安全に受け入れるための環境整備を進めます。
- 旅客の満足度向上や地域経済の活性化を図るため、九州の東の玄関口としてふさわしいターミナルの整備を進めます。
- 開発が進む様々な次世代モビリティなどに対応するため、関係機関との連携を図ります。



クイーンエリザベス寄港時の賑わい状況
別府港(石垣地区)

■インフラの魅力発信

- 普段は入れないインフラの内部や工事現場の見学、ダムカード等の作成・配布などにより、インフラの魅力を発信します。
- 本県の有するダム、橋、港、歴史的な施設など、インフラ施設の魅力を掘り起こし、観光資源としての活用を検討します。

※4 スポーツを見に行くための旅行およびそれに伴う周辺観光や、スポーツを支える人々との交流などスポーツに関わる様々な旅行